

# 図書館だより

9月に行われた後期書店巡りで購入した本を紹介します。書店巡りでは、書店に並べられているいま話題の本を選んできたので、みなさん利用してください。  
※今回のPOPは、2年生の図書委員広報係が作成しました。

「小さいわたし」

益田ミリ (著) ポプラ文庫

長い人生の中のほんのひとときであるこども時代の特別な心のきらめきを益田ミリが自身の思い出をもとに描いた物語です。幼い頃のかけがえのない一瞬、胸に抱いた気持ち、そして今日のこども大人になったら忘れてしまひのかな。



『8番出口』 川村元気 (著) 水鈴社

ゲーム「8番出口」の小説版で、進んでも同じ景色が続く地下通路に迷い込んだ主人公の、人生の迷いからの脱出を描く物語です。読めば読むほど現実がゆがむような、不気味な体験を味わえます。



『伝言猫がカフェにいます』

標野 凪 (著) PHP文芸文庫

あの世とこの世を結ぶ、カフェ・ホンには伝言猫がいます。ふー太は七くたの人の言葉を届ける不思議な猫。伝えられなかったたたくさんの想いをもう一度届けるふー太の仕事を描いた物語です。



『超新訳 エモ恋万葉集』 辰気羊(著)

スグーツ出版

「古典、て難しそう…」 「万葉集、て何？」 「今、恋に悩んでいます」

「エモい気分になりたい」 そんなあなたにオススメ。

7000年前に恋した人たちの、美しくてかわなくてエモい言葉たち。

現代風の言葉に置き換えて、素敵なイラストとともに。

キラキラした恋心も、呼び起こしませんか？ ♪

超新訳

エモ恋万葉集

辰気羊(著)

スグーツ出版

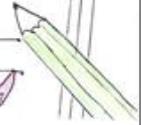
千年前の恋が

いまの胸に触れてくる。

#恋は時を越える

#エモい

#こぼれど恋を語る



『朝を待たなら海の中』

無傷(著) KADOKAWA

自分に自信が持てず、生きづらさを感じてる著者が、孤独や不安と向き合いながら「自分の本音」や「生きる意味」を探すエッセイです。

『マッドのイカれた青春』 実石沙枝子(著) 祥伝社

常識なんて気にしない少年、マッドが「自分の生きかた」を探る物語。

友との衝突、初めての恋、どうしようもない怒りや孤独

ごちゃ混ぜとある混沌とした青春の日々。

イカけたらどうですか？、バカみたいにも熱くて、どこか切ない。

読むたびに、自分の生きかたにも勇気が湧く。

マッドのイカれた青春

ほんなに不器用でも、自分らしく生きることの価値を々と教えてくれる物語。

読み終えた後、自分が「今」も特別に感じられる。

名探偵に  
さよならを

祖父の謎や謎に推理  
を披露するミステリー小説！



『名探偵にさよならを』

小西マサキ(著) 宝島社

レビ-小体型認知症を患う祖父の名推理!! 「煙草を1本くわひひひ」から始まる「消えたおばあさん」「首と鍵の二重密室」「豪華客船内の密室殺人」を次々に解決するミステリー小説です!